

Ch. 3 教育の言葉

1. 個性の尊重

○教育の質的改善

高度経済成長期・・・教育の量的拡大を達成

→ 教育の質的改善へ

▽1971 (昭 46 年): 中央教育審議会答申 (46 答申)

「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」

・・・学校教育の全面的な見直しを提言

▽1984 (昭 59 年): 臨時教育審議会の設置

<21 世紀のための教育の目標>

ひろい心, すこやかな体, ゆたかな創造力

自由・自律と公共の精神

世界の中の日本人

<教育改革のための方法>

個性重視の原則

生涯学習体系への移行

国際化・情報化への対応

○個性の尊重 = 世界に一つだけの花

世界に一つだけの花

(作詞・作曲 槇原敬之)

※歌詞については、著作権保護の配慮のため、非公開としております。

Q 「世界に一つだけの花」から、個性が開花するための条件を読み解く。

<注>

▼中央教育審議会

1952 年, 戦後の教育改革の主導的役割を担った教育刷新委員会の要請により設けられた, 文部科学大臣諮問の審議会。その役割は「教育, 学術または文化に関する基本的な重要施策」を調査審議することになる。委員は 30 人以内で組織され, 委員は学識経験がある者のうちから, 文部科学大臣が任命する。

▼臨時教育審議会

1984~1987 (昭 59~62) 年, 教育界の問題解決 (いじめ, 校内暴力, 体罰, 落ちこぼれ, 国際化・情報化など) と 21 世紀に向けての教育改革のための審議を目的として, 総理府 (当時) に設置された中曽根内閣総理大臣の諮問機関。審議会は 4 次につながる答申を出し, これをもとに教育改革が進められた。

○個性尊重の表と裏

Q 「エンパワメント」(empowerment)の思想(下記資料参照)が立脚する人間像とは?

<資料>

森田ゆり, 1998, 『エンパワメントと人権』解放出版社 より抜粋

エンパワメントの思想は「人間はみな生まれながらにみずみずしい個性, 感性, 生命力, 能力, 美しさを持っている」と信じる。生まれたばかりの赤ちゃんは, 障害があろうがなかろうが, 男だろうが女だろうが, 人種や国籍や貧富の差や, 家庭環境の違いにかかわらず, 誰もがみなそれぞれのかげがえのないすばらしさをもって地球にやってくる。(pp. 16-17)

エンパワメントとは自分で選択をしていかなければならないことだ。自分のとった選択の結果は自分で引き受け, そこからまたさらなる選択をしていくことだ。自分で選ぶという自由はすばらしいことだけれど, 同時にしんどいことでもある。(p. 42)

自分で選ぶといっても, 選ぶための情報や援助を他者からもらうことは大いに必要だ。それでも間違った選択をしてしまうこともある。すると選んだ行動に対して批判が来る。「だからいったじゃない」「そらみたことか」と。後悔の念も湧いてくる。でも, まちがってしようが, 正しかろうが, 人から批判されようが, 自分で選んだのだからその結果は引き受けていかねばならない。

結果を引き受けるということは, 後悔と自己批判で自分を責めることではなく, 要するにそこでまた新しい選択をしていくことだ。まちがった選択をしてしまったのなら, 今度はそのまちがいを修正する選択をしてゆけばよい。(p. 43)

2. 教育の思想, 教育の理想

○子どもと大人

Q 「子ども最優先」(children first)とは, 具体的にどのような場面を想定しているか。

○ポジティブ・リスト/ネガティブ・リスト

Q 学校現場にとって, 教育の言葉がポジティブ・リストであることの弊害は何か?

○言葉と言葉の分節／節合化 (アーティキュレーション articulation)

Q 「いじめ自殺」という言葉のはたらき

Q 「学力低下」という言葉のはたらき

○教育の言葉を測定可能な項目へ

Q 「コミュニケーション能力の低下」を具体的に表現する